

平成 27 年度 活動報告



特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構

平成27年度 活動報告 目次

東京本部

利根川上流氾濫解析等検討業務.....	1
庄内川水防災情報連携検討業務.....	1
円山川流域地域防災力向上支援業務.....	2
水害時における市民安全確保推進支援業務.....	2
熊野川危機管理向上支援業務.....	3
浅間山ジオパーク構想推進支援事業.....	3
大豊町タイムラインを活用した地域防災力向上支援業務委託.....	4
阿武隈川タイムラインセミナー企画・運営業務.....	4
九州地方タイムライン研究委託（球磨川等）.....	5
渡川流域大規模浸水被害軽減行動計画検討業務.....	5
大規模災害リスク地域における消防団・民生委員・自主防災リーダー等も守る「コミュニティ防災」の創造.....	6
関東地方タイムライン研究委託（防災行動に関する資料収集作業）.....	6
浅間山火山タイムライン検討業務.....	7
AAR（After Action Review）研究会.....	7
書籍の出版『タイムライン 日本の防災対策が変わる』.....	8

北海道支部

伊達市防災アドバイザー.....	9
中南米地域 火山防災能力強化研修.....	9
洞爺湖有珠山ジオパーク推進支援.....	10
壮瞥町有珠山写真集製作.....	10
さぽーとほっと基金 札幌市南区子ども防災学習.....	11
壮瞥小学校地域環境防災学習支援.....	11
沙流川流域水災害事前防災行動計画.....	12
上富良野町火山ハザードマップ及び防災ハンドブック作成.....	12
石狩川流域における流域防災機関連携の調査研究.....	13
地域の守り手の安全確保支援策の調査研究.....	13
STV ラジオ防災講座講師派遣.....	14
北海道災害情報研究会.....	14
「緑はどうなった？」事業支援.....	15
CeMI 北海道 会員研修セミナー.....	15
防災講演及び出前授業.....	16

関西支部

教育機関や自治体・団体からの依頼による防災啓発講座及び新聞等への寄稿.....	17
小学校での出前授業.....	18
中学校・高等学校での出前授業.....	18

特別研究員

教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座①.....	19
教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座②.....	19
教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座③.....	20
萩ジオパーク構想に関する講演・巡検.....	20
その他の活動①.....	21
その他の活動②.....	21

利根川上流氾濫解析等検討業務

首都圏を氾濫区域に抱える利根川上流域は、堤防決壊などの水害が発生した場合には、経済被害規模は甚大なものとなることが想定される。このため、過年度までの調査検討結果を基に、利根川上流氾濫区域内の事業者等が、利根川の氾濫に対し自ら被害軽減対策・事業継続計画等を検討・実施できるよう具体的な支援方策を検討した。検討にあたっては、個別事業者とのワークショップ等も実施し、その中で得られた意見や課題から昨年度作成したポイントブックの修正や方策検討を行った。



大規模事業者とのワークショップ状況



中小規模事業者とのワークショップ状況

＜パシフィックコンサルタンツ JV(利根川上流河川事務所)＞

庄内川水防災情報連携検討業務

平成 26 年度に検討した庄内川事前防災行動計画（タイムライン）を更に充実させることを目的に名古屋駅前地区の地下空間を対象とした詳細検討を行うとともに、名古屋水防災情報 WG を実施した。名古屋駅前地区の地下空間を対象とした詳細検討においては、地下施設管理者等によるワークショップを行い、現状の課題整理と地下空間における防災行動の基本的な考え方の整理を行った。名古屋水防災情報 WG においては、関東東北豪雨における状況や課題を共有し、名古屋圏における水防災情報のあり方について意見交換を行った。



名古屋水防災情報 WG の様子



地下施設管理者等によるワークショップの様子

＜国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所＞

円山川流域地域防災力向上支援業務

防災意識の向上、防災意識の普及、自主防災活動の促進を目的に、円山川流域住民を対象とした「防災学習会」を実施した。防災学習会は、平成23年度からの継続的な取り組みで、今年度は、過去の水害における教訓・課題を踏まえた市の取り組みや学校防災について講演を行った。また、モデル地区を選定し、住民とともに危険箇所を確認するまち歩きを行い、水害時の地域防災を考える「住民ワークショップ」や、大人から子どもへ水害の経験を伝承するとともに水害への備えや水害時の行動を考える「地域防災学習会」を実施した。



防災学習 中貝市長の講演



地域防災学習会 グループワーク

＜国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所＞

水害時における市民安全確保推進支援業務

本業務は、豊岡市民を水害から守るために市全域の市民安全確保計画についてリアリティのある対策を推進するため、市民の避難行動の実態を把握しながら、市と地区住民が一体となった安全確保計画等を策定し総合的な減災社会形成を目指すもので、平成25年より実施している取り組みである。本年度は、豊岡市357行政区ごとに作成することを予定している「地区防災マップ」の作成方針を検討するとともに、地区防災マップの見方や活用方法を示した住民向けの「地区防災マップの手引き」案を作成した。



地区防災ハザードマップ素案



地区防災ハザードマップの手引き



＜兵庫県 豊岡市＞

熊野川災害対応連携支援業務

本業務は、熊野川流域のおち国の直轄区間に隣接する三重県紀宝町および和歌山県新宮市において、タイムラインを活用した災害対応への支援を目的として行われた。

三重県紀宝町では、関係機関が集まり出水期におけるタイムライン対応を振り返る検証会議を 2 回開催し、課題や今後必要な取り組みを検討した。

また、和歌山県新宮市では、タイムラインの作成が始まっていないため、今後、タイムラインの検討に取り組むためのタイムラインに関する市職員への勉強会を開催した。



紀宝町での検証会議の様子



新宮市での市職員に対する勉強会

＜国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所＞

浅間山ジオパーク構想推進支援事業

国内有数の活動的な火山である浅間山の山麓地域では、日本ジオパークとして認定を受けるため、H26.3 に推進協議会(嬬恋村・長野原町)を設立してジオパーク活動を推進している。CeMI では、洞爺湖有珠山や伊豆大島などのジオパーク推進支援を行ってきた経緯から、同ジオパーク構想の推進の支援を行った。

ジオサイトの選出、ジオガイド制度の構築、広報資料の作成、フォーラムやモニターツアーの実施、JGN への加盟申請書の作成など、ジオパーク創成期の多岐にわたる活動を支援した。



第 2 回基本構想検討会



ジオパークモニターツアー

＜浅間山ジオパーク構想推進協議会＞

大豊町タイムラインを活用した地域防災力向上支援業務委託

四国のほぼ中央に位置する高知県大豊町において、風水害や土砂災害から住民の命や財産等を守るために、平成 26 年に作成した「大豊町タイムライン」の運用支援及び「地区タイムライン」の作成支援を行った。タイムラインの実運用に向けて、平成 27 年に発生した台風で試行運用を行い、対応のふりかえりとともに行動項目の精査を行った。大豊町タイムライン検討部会を開催し、試行運用の結果を踏まえた各機関の連携体制を確認した。また、モデル地域における住民が避難行動や連絡体制を考え、町と連携し「地区タイムライン」を作成した。



台風 9 号におけるタイムラインの試行運用



地区タイムライン作成に向けたワークショップ

<高知県大豊町>

阿武隈川タイムラインセミナー企画・運營業務

阿武隈川流域における地域防災力向上に資することを目的として、阿武隈川沿川の自治体・関係機関職員を対象に「阿武隈川タイムラインセミナー」を開催した。本セミナーは郡山市職員等を対象としたものと阿武隈川上流域の全自治体を対象としたものの 2 回を開催し、それぞれにおいて、タイムラインの検討に関わりを持つ有識者の講演のほか、タイムライン策定にあたっての不安や疑問点を解消するための意見交換を実施した。



郡山市職員を対象としたセミナーの様子



全自治体を対象としたセミナーの様子

<国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所>

[illegible]

＜日本工営株式会社＞

渡川流域大規模浸水被害軽減行動計画検討業務

[illegible]

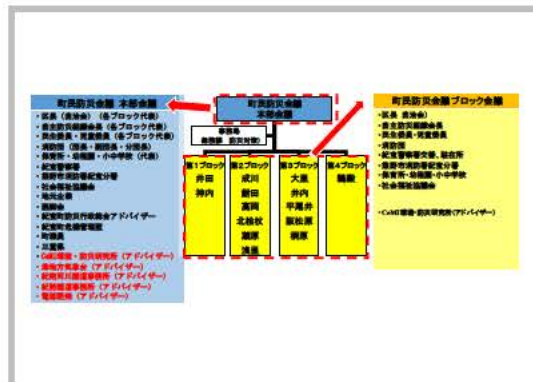
＜東京建設コンサルタント＞

大規模災害リスク地域における消防団・民生委員・自主防災リーダー等も守る「コミュニティ防災」の創造

平成25年10月から続く3カ年の研究プロジェクトであり、平成27年度は折り返しの年となる。今年度は、地域の防災組織の連携手法として、自主防災組織や自治会、民生委員など住民の代表者および役場、県、国、防災関係機関が集い地域の防災活動を考え実施する、紀宝町町民防災会議を紀宝町に設置した。紀宝町では地域住民を主体とした地区タイムラインの開発も行っている。また、消防団員や民生委員、自主防災組織の安全管理マニュアルの作成のため、これまで実施した調査から課題や必要な対策の整理を行った。



紀宝町 町民防災会議の様子



紀宝町町民防災会議の構成

＜国立研究開発法人 科学技術振興機構／環境・防災研究所＞

関東地方タイムライン研究委託

近年、事前防災行動計画（以下、タイムライン）を活用した防災対策が注目されつつあるが、これまでの我が国における防災対策は事後対策を中心としてきたため、事前対策に関する知見の蓄積が不足している。また、タイムラインの策定や活用については地域性や流域特性を考慮する必要がある。このため、本研究では関東地方の東京都北区、板橋区、足立区をモデル地域とし、タイムラインの策定・活用に向けて、検討会及び机上演習を行った。

荒川下流タイムライン（試行案）



机上演習の様子

＜東京建設コンサルタント／環境・防災研究所＞

浅間山火山タイムライン検討業務

浅間山の噴火被害最少化へ向けて、防災関係機関が連携した先を見越した対応を行うため、「浅間山の噴火に備えた嬬恋村事前防災行動計画（タイムライン）策定検討会」を通じて嬬恋村事前防災行動計画（タイムライン）の検討を行った。検討会では、タイムラインに対する認識や浅間山の火山活動と火山情報について共有を行った上、浅間山の噴火によって、地域に起こる被害や生活への影響、火山活動に伴う課題に対する解決方法についてワークショップ形式で議論を行った。議論結果を踏まえ、タイムライン素案を作成した。



ワークショップ形式による議論の様子

策定したタイムライン素案（イメージ）

<自主事業／東京本部>

AAR（After Action Review）研究会

AAR 研究会は、有識者・防災関係機関・民間事業者等で構成され、米国における AAR（ふりかえり）制度の実施方法や内容について研究し、我が国の自然災害対応への適用策の検討を行う場として、平成 27 年 7 月に設置された。当法人は研究会の事務局を務め、企画・運営支援を担当している。

今年度は、計 4 回の研究会を開催した。また、3 月には海外調査（台湾）を実施し、1999 年集集地震（M7.3）と 2009 年台風 8 号による大規模深層崩壊（土砂災害）のあった小林村の復旧・復興の様子を視察、2016 年 2 月 6 日に発生した高雄市を震央とする台湾南部地震での被災調査も行った。



研究会の様子



海外調査（台湾）の様子

<自主事業／東京本部>

書籍の出版『タイムライン 日本の防災対策が変わる』

近年、台風にもなう大雨や土砂による災害で防災対応の遅れや不備が指摘される中、タイムラインを活用した防災対応が注目されている。

当法人では、タイムラインとその作成方法等について、わかりやすく解説した書籍「タイムライン 日本の防災対策が変わる」を出版した。巻末には、自治体のタイムライン作成例を掲載している。

（編著：松尾一郎／CeMI タイムライン研究会

発行：日刊建設工業新聞社

発売：廣済堂出版）



<自主事業／東京本部（CeMI タイムライン研究会）>

伊達市防災アドバイザー

昨年度までと同様に次に記す業務を行った。

- 1) 広報だての防災コラム“日頃から災害に備えましょう”
H27 年 10 月号 有珠山噴火の兆しは見えているのか？
H28 年 3 月号 旅先での危機管理

- 2) 有珠山現地見学会

H27 年 10 月 9 日 有珠火山防災会議協議会参加機関の防災担当者対象：山頂火口原南部での噴火を想定した現地実習

H27 年 10 月 10 日 伊達市及び周辺自治体の市民対象：山頂火口原南部で 1977-78 年及び 2000 年噴火で生じた変動の有様を見学し、近い将来に発生する噴火について考えた。

- 3) 職員防災特別研修

H27 年 9 月 3 日 講義“有珠山の次期噴火に備えて”

H27 年 9 月 4 日 山頂火口原を歩きながらの実習は天候不良のため西山山麓火口散策路と火口原展望台にコースを変更して噴火で生じた地形の変化や災害の発生状況を学習した。

- 4) 市民防災講座

H28 年 2 月 4 日に伊達市防災センター講堂で開催。演題は“日本列島の火山活動は活発化しているのか？”。周辺自治体の市民や防災関係機関の職員も含めて約 70 名が受講。

＜北海道伊達市＞

中南米地域 火山防災能力強化研修

中南米地域の火山を有する国を対象とし、火山防災の現場に携わる行政官や学識者の育成を目的とした研修を、独立行政法人国際協力機構(JICA)北海道とともに実施した。6カ国9名の研修員は、約1ヵ月間の講義や現地視察を通して減災対策や体制整備、人材育成の実例を学び、自国における行政と地域コミュニティの連携による防災力向上プランを作成した。駒ヶ岳・有珠山・十勝岳現地研修では、地元自治体や関係機関から、減災対策等の説明をしていただいた。普段からの各機関の連携が、減災行動に有益であることを実感してもらう機会となった。



駒ヶ岳火山防災協議会の方と



壮瞥町の子ども達と昭和新山登山

＜JICA 北海道＞

洞爺湖有珠山ジオパーク推進支援

平成 21 年 8 月に「世界ジオパークネットワーク」に加盟した洞爺湖有珠山ジオパークの活動を推進するため、CeMI 北海道の職員が推進協議会の事務局に出向し、地域に密着したジオパーク活動の支援を行った。

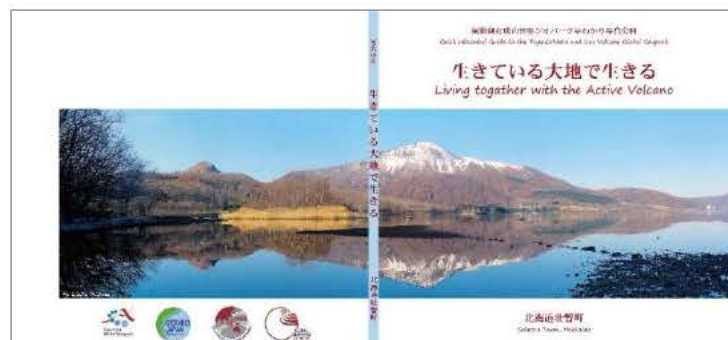
昨年度までに引き続き、ホームページ更新等の広報活動、各種ジオパークイベントの企画運営、ジオパーク関連学会や大会等でのプレゼンテーション、洞爺湖有珠火山マイスター制度の運営など、事務局業務の支援を行っている。



＜洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会＞

壮瞥町有珠山写真集製作

1995 年に発行された 1943-45 年有珠山噴火の写真集「麦圃(ばくほ)生山(せいざん)」は、地元住民のみならず国内外の火山研究者や関係者にとって貴重な資料であった。有珠山麓の町である壮瞥町からの依頼で、その後の有珠山写真集を制作することとなり、CeMI では写真の選定からデザイン制作・印刷製本までを行った。前述の麦圃生山をモデルに、1977-78 年噴火、2000 年噴火の前兆から緊急対応、噴火、復興といった一連のストーリーを立てて写真を選定し、すべてにキャプションや解説をつけている。



表紙・裏表紙

＜北海道壮瞥町＞

さぽーとほっと基金 札幌市南区子ども防災学習

札幌市が行う「さぽーとほっと基金」制度を通じて、鹿島舗道工業株式会社の支援・要望のもと、南区に暮らす子どもたちの防災意識・知識の向上及び地域住民の安全で安心なまちづくりに資する「子ども防災教室 ～土砂災害から身を守ろう～」を実施した。

日 時	対 象	場 所	内 容
11 月 12 日(木) 15:00～17:00	小学校 1～6 年生 40 名	南の沢児童会館	・土砂災害を学ぼう ・土砂災害模型実験 ・非常持出品ゲーム ・自分だけの懐中電灯をつくろう



防災授業の様子



土砂災害模型実験の様子

<鹿島舗道工業株式会社・札幌市>

壮瞥小学校地域環境防災学習支援

有珠山周辺地域は、数十年に一度の火山噴火により、生態系の破壊と再生が繰り返されてきた。一方で、外来種の侵入や鳥獣の個体数増加等が本来の生態系再生に影響を与えていることがわかってきた。また、森林再生のために進められた人工林にあっては、時代の要請の変化に伴って、自然林への転換が模索され始めている。このような状況の中、本活動では、壮瞥小学校の児童を対象に、地域の生態系及び森林保全の意義と重要性についての学習を推進している。農水省の支援のもと、当機構と壮瞥町、関係機関および有識者等が連携して、この取組を企画・運営している。



洞爺湖・中島での自然観察授業の様子



学校林を利用した森林整備授業

<農林水産省>

沙流川流域水災害事前防災行動計画

水害に対するタイムライン防災の検討を行うため、沙流川流域の平取町をモデル地域として事前防災行動計画(タイムライン)に関する資料収集や検討会の企画・運営、タイムライン素案のとりまとめ等を行った。北海道内のタイムライン検討としては、平取町は先導的役割を果たしており、今年度は 2 回の検討会を通じて素案を作成し、次年度に検討会や検証訓練を実施して試行版を完成させる予定となっている。



検討会準備会 パネルディスカッション



第 2 回検討会 検討ワークショップ

<北海道開発局 室蘭開発建設部>

上富良野町火山ハザードマップ及び防災ハンドブック作成

十勝岳の火山活動が活発化したときに、町民が適切かつ迅速な避難行動をとれることを目的として、火山ハザードマップ(十勝岳火山防災マップ)を検討・作成した。自宅や施設等にマップを掲示・保管し、平時から目を通すことで、危険の及び得る範囲や避難場所を簡単に理解できるような内容とした。また、町民が各種自然災害や大規模災害から自身や家族の身体・生活を守り、被害を予防または軽減するために必要な知識や方法を理解することを目的として、防災ハンドブック(住民防災学習冊子)を検討・作成した。



十勝岳火山防災マップ



住民防災学習冊子

<北海道上富良野町>

石狩川流域における流域防災機関連携の調査研究

石狩川流域では、昭和 30 年代や昭和 50 年代に大規模な洪水が発生したものの、近年大規模な洪水が発生しておらず、流域の市町村をはじめ、同流域を管轄する防災関係機関は洪水に対する防災対応や出水時の応急・復旧対応などの経験に乏しい。特に近年国内各地で発生している大規模水害では、情報連携や対応人員の不足により、住民の安全確保対策が十分に機能していない例が散見されている。

そこで、当機構では、道内の民間企業との共同研究で、主として石狩川流域の自治体・河川管理者・気象官署及び防災関係機関における初動時から復旧対応までの一連の防災対応行動と、情報や人的応援等のやりとりに関する調査研究を行った。これらの結果は、自治体の水防研修や機関連携検討会議等で活用・検証し、有効な機関連携方策の検討に役立てている。

<共同研究>

地域の守り手の安全確保支援策の調査研究

東日本大震災において、消防団員や民生委員、自主防災リーダー等の地域の守り手が多く被災したことから、JST の研究委託を受け、「大規模災害リスク地域における消防団・民生委員・自主防災リーダー等も守る『コミュニティ防災』の創造」というテーマで研究プロジェクトを平成 25 年 10 月から名古屋大学、関西大学等とともに実施している。このうち当機構では、「地域の守り手の安全確保支援策」の調査研究を担当し、地域の守り手に、地域防災に関する現状と課題等についての調査を行い、結果をとりまとめている。

平成 27 年度は、数年にわたって調整を続けてきた北海道様似町の一コミュニティ(連合自治会)において、守り手も含めたコミュニティの防災力向上のための検討会を初めて開催し、住民ワークショップで地域防災の問題点を整理し、課題を抽出した。



地域住民アンケート表紙



様似町コミュニティ 第 1 回地域防災検討会

<国立研究開発法人 科学技術振興機構>

STV ラジオ防災講座講師派遣

STV ラジオ「のりのりラジオ」（平日午後 3 時～午後 6 時）の 1 コーナーである「どさんこ防災研究所」において、防災に関する情報を道民へ発信した。「どさんこ防災研究所」は、月 1 回（1 回あたり 15 分程度）の番組で、河川、火山、海岸、風雪等の災害と、その備えについて情報発信している。

当機構は、「どさんこ防災研究所」のテーマや内容を企画し、そのテーマに応じた講師を派遣している。今年度はシナリオ作成についても企画・執筆を行い、防災に関する話題をよりわかりやすくかつ正確に伝えるべく努力している。

放送日	回数	テーマ・講師	放送日	回数	テーマ・講師
4月23日 (木)	第24回	川からの恵みと災害について 布川 雅典 氏	10月27日 (火)	第30回	豊平川の秘密：シャケられない話 です 布川 雅典 氏
5月28日 (木)	第25回	オーダーメイドのダム造り 布川 雅典 氏	11月30日 (月)	第31回	川の災害を小さな生物が語る 布川 雅典 氏
6月25日 (木)	第26回	北海道の火山について 岡田 弘 氏	12月15日 (火)	第32回	近年の暴風雪被害と、身を守る ためには 植松 孝彦 氏
7月28日 (火)	第27回	川の個性がもたらす災害と環境 布川 雅典 氏	1月26日 (火)	第33回	暴風雪に対する日頃からの備え 植松 孝彦 氏
8月31日 (月)	第28回	植物が語る防災情報とは 布川 雅典 氏	2月22日 (月)	第34回	津波災害を再び考える 1 藤間 聡 氏
9月29日 (火)	第29回	最近の火山の動向と昭和 新山創成 70 周年について 岡田 弘 氏	3月14日 (月)	第35回	津波災害を再び考える 2 藤間 聡 氏

<自主事業／北海道支部>

北海道災害情報研究会

報道機関、防災関係機関、有識者等で構成された「北海道災害情報研究会」は、参加機関・団体それぞれの立場における災害・防災情報の伝え方やその共有のあり方等を研究するとともに、情報の受け手と出し手の相互理解を図る目的で平成 16 年に設置された。当機構は、研究会の事務局を務め、企画運営支援を担当している。

	開催日	参加者	テーマ
第 25 回	H27.6.9	72 名	『活発化する火山 ～ 噴火警戒期の報道のあり方』 ●情報提供 1 宇井 忠英 氏 (北海道大学名誉教授・NPO 法人環境防災研究機構北海道理事) ●情報提供 2 岡田 弘 氏 (北海道大学名誉教授・NPO 法人環境防災研究機構北海道副代表理事)

<自主事業／北海道支部>

「緑はどうなった？」事業支援

2000 年の有珠山噴火は、洞爺湖温泉小学校に大きな影響を与え、その校舎は移転を余儀なくされた。この有珠山噴火で失われた樹木の再生を通して子どもたちに地域をもっと知ってもらうために、小学校、大学、防災関係機関、研究機関等が連携し、有珠山噴火の学習会や植樹を行う「緑はどうなった？」事業を実施している。

当機構は、「緑はどうなった？」事業による授業運営補助や広報活動の支援を行っている。本事業では、噴火被害を受けた山林に森林を再生させる野外活動を主に行っている。



室蘭建設管理部による有珠山噴火の説明



10 年以上前に植えた木々の観察

<自主事業／北海道支部>

CeMI 北海道 会員研修セミナー

CeMI 北海道の会員との情報共有や地域防災力向上のための議論を行うことを目的に、平成 22 年度より(2 ヶ月に一回)定期開催している「会員研修セミナー」は、平成 28 年 4 月で第 29 回となった。平成 27 年度は、前年度の「北海道の災害を考える」を受けて「北海道の防災を考える」を年間テーマとして、北海道内の防災対策の現状と、今後の防災力向上に活用できる新たな視点について話題提供・議論を行った。

セミナーは、CeMI 北海道の理事・会員とその推薦者を参加対象者としており、毎回様々な分野からの参加者(20～30 名)が有益な意見交換を行なっている。

	開催日	話題提供者	テーマ
第 25 回 (総会講演会)	H27.6.22	伊藤 晋 氏 CeMI 北海道 主任研究員	災害から命を守るために必要なこと ～心理学を防災に～
		黒木 幹男 氏 元北海道大学准教授	川そこからレキがなくなる!!
第 26 回	H27.8.21	新谷 融 氏 北海道大学名誉教授	CeMI 活動から発掘された地域住民の自主防災力～北海道内の代表的土砂災害事例から～
第 27 回	H27.10.16	布川 雅典 氏 CeMI 北海道 主任研究員	巨視的観点で考える流域の環境保全と防災
第 28 回	H28.1.22	植松 孝彦 氏 雪研スノーイーターズ代表取締役	地球温暖化の最近の話題－COP21 の疑問など－
第 29 回	H28.4.8	志田 昌之 氏 元旭川地方気象台長	とことん納得！天気図の見方・使い方

<自主事業／北海道支部>

防災講演及び出前講座

道内市町村等や関係機関からの依頼によって当機構の理事・研究員が各地で防災講演や出前講座等の講師として情報提供を行った。以下に一覧を示す。

月 日	依頼者・話題提供者	月 日	依頼者・話題提供者
6月27日	防災士研修(新谷、岡田)	10月24日	防災士研修(新谷、岡田)
7月11日	札幌市防災訓練；石山東小学校(新谷)	10月24-25日	日本災害情報学会(作間・加村・伊藤)
7月26日	NHK 防災イベント旭川・キッチン火山実験(伊藤)	10月27-29日	日本ジオパーク全国大会 in 霧島GP(伊藤・広田・松本)
8月5日	帯広市防災セミナーin とかち(岡田)	12月7日	北大工学部FD・博士交流セミナー講義(岡田)
8月21日	CeMI 北海道会員セミナー(新谷)	12月10日	北海道地方非常通信協議会 防災セミナー講演(岡田)
9月3日	道新十勝政経懇話会(岡田)	1月19日	空知市町村職員土砂災害防止法研修会・講演(新谷)
9月19日	ネイパル足寄(岡田)	1月22日	浅間 GP 長野県自治体職員ジオパーク勉強会(伊藤ほか)
10月3日	ジオフェスティバル札幌・台風誕生のしくみ(広田・伊藤)	1月27日	壮瞥町職員図上演習・有珠山の大規模噴火に備えて(伊藤・布川)
10月7日	壮瞥小学校環境学習(布川・梅田)	2月20日	洞爺湖有珠火山マイスター勉強会・災害心理について(伊藤)

<自主事業／北海道支部>

教育機関や自治体・団体からの依頼による防災啓発講座 及び新聞等への寄稿

昨年度までに引き続き、自治体・大学・市民団体・報道機関など多様な相手先から依頼を受け、防災や自然学習の講師を務めた。新聞等への寄稿を行った。詳細は次の通りである。

実施日	依頼元	演題・テーマなど
'15.6.9	災害情報研究会（札幌）	噴火警戒期の報道に望むこと
'15.6.18	産経新聞社「iRONNA（総合オピニオンサイト）」	まだ異常事態ではない！ だが観測体制には落とし穴がある
'15.6.20	信濃毎日新聞シンポジウム（木曽福島）	火山の危機と恩恵
'15.7.22	有珠火山マイスタースキルアップ講座	岩屑なだれの発生とそれに伴う災害
'15.7.23	有珠火山マイスタースキルアップ講座	洞爺カルデラ・中島・有珠山～ジオパークの地学的裏付けを語る～
'15.7.24	NHK 札幌放送局防災研修	北海道の火山と噴火の特徴
'15.8.31	読売新聞北海道支社社内研修	北海道の火山と噴火の特徴
'15.9.1	北海道新幹線建設局業務研究発表会	道南の火山と噴火
'15.9.4	有珠火山マイスター養成講座	北海道の火山と噴火
'15.10.22	関西大学文学部地理専修	火山噴火と原発の立地
'15.11.25	東京都大島町	海外の火山観光地に学ぶ
'15.11.29	岐阜県下呂市小坂町町民防災講演会	御嶽山の噴火と小坂への影響を考える
'15.12.2	苫小牧港管理組合	樽前山の噴火に備えて～苫小牧港港湾 BCP（火山編）策定に向けた基礎情報～
'15.12.13	武庫川がっこう（宝塚）	自然災害に備える
'16.1.18	宮城県教育研究会地学部会	過去の事例に学ぶ噴火のリスク
'16.2.4	苫小牧市民防災講座	樽前山の噴火に備えて
'16.2.10	北海道大学東京同窓会誌「FRONTIER」	火山災害軽減に向けて有珠山での取り組み
'16.2.14	灘浜サイエンススクエア自然教室（神戸）	日本列島の火山活動は活発化しているのか？
'16.2.19	長岡京市科学とあそびの会	地震を知り備える
'16.2.27	仁川台倶楽部（宝塚）	巨大地震と集中豪雨災害に備える
'16.3.12	きしわだ自然資料館（岸和田）	大阪平野を火山灰だらけにした巨大噴火の実態を探る

<自主事業／関西支部>

小学校での出前授業

2015 年 10 月から 16 年 1 月に大阪府茨木市・枚方市・大阪市、奈良県生駒市及び兵庫県宝塚市の小学校で 6 年生の理科の時間に“火山活動による大地の変化”及び“地震と津波による大地の変化”という題目の出前授業を実施した。授業はビデオ映像や噴火と断層形成の模擬実験を交えてクラス別に行い子供たちの学習意欲を引き出す工夫をした。地震・津波の授業では自宅で家族に授業で学習したことを報告するという宿題を出した。

実施した小学校名は次の通りである。

大阪府	茨木市	安威、中条、耳原、穂積、中津、水尾、郡山
	枚方市	樟葉西、藤阪、磯島
	大阪市	西島、中津
奈良県	生駒市	生駒
兵庫県	宝塚市	西山、丸橋、すみれが丘、安倉北、末広

<自主事業／関西支部>

中学校・高等学校での出前授業

2015 年 6 月には北海道伊達市光陵中学校で全校生徒を対象として“有珠山の噴火に備える”という題目の出前授業を行った。

2016 年 1 月には宮城県立仙台三桜高等学校の地学基礎の科目で“日本列島の火山活動は活発化しているのか？”という題目の出前授業を行った。



教室での授業

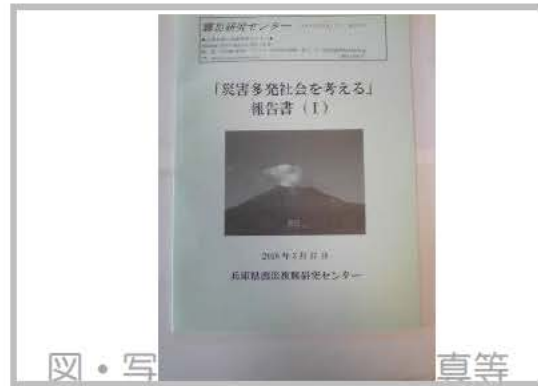


校舎外での噴火実験

<自主事業／関西支部>

教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座①

2015年、昨年から継続して放送大学兵庫学習センターの「環境地質クラブ」で毎月第2金曜日に、現在問題となっている環境や土砂災害、洪水など災害問題について啓発の講義を行った。2015年は南海トラフ地震や鬼怒川洪水などの問題となった問題を取り上げた。さらに、6月に、六甲山地で、断層や花崗岩と中・古生層が接する露頭などの見学会、さらに、12月に神戸大学理学部の宇宙関連の研究施設の見学会も行った。兵庫県自治体問題研究所の会報に、昨年から継続して毎月1回連載企画「兵庫県の自然災害」を連載し、52回を迎えた。また、内閣府認証NPO法人地質汚染審査会の会報にも環境汚染記事を連載中。



＜自主事業／特別研究員（田結庄 良昭）＞

教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座②

自治体や市民団体など多様な相手先から依頼を受け、防災や環境、災害などの啓発活動を行った。稲美野学園・老人大学での地震と地盤、山崎断層帯や南海トラフ地震の被害予測などを講演した。また、自治会からの依頼で、神戸市の土砂災害警戒区域のハザードマップの解説と他所の仕方などを講演した。また、リニア新幹線での問題点についても講演を行った。淀川左岸線2期事業についても問題点を報告した。主なものを下記に記した。

実施日	実施場所・行事名など	演題・テーマなど
2015/5/16	篠原福祉会館・篠原自治会	神戸市灘地区の土砂災害危険地
2015/6/21	龍谷大学・環境学会リニアシンポ(招聘)	リニア中央新幹線ルートの問題点
2015/9/8	稲美野学園・老人大学大学院2年生	南海トラフ地震とその被害想定
15/11/30	稲美野学園・老人大学3年生	地震と地盤の関係
15/10/25	中津リバーサイドコーポ・中津川自治会	南海トラフ地震での淀川左岸の堤防
2016/1/30	大阪京橋会館・大阪公害をなくす会	淀川左岸線2期事業延伸事業の問題点
2016/2/20	新長田勤労会館・兵庫県震災研究センター	災害多発社会を考えるシンポジウム
2016/2/7	大阪パルコダ会館・大阪自治体研究所	淀川左岸線2期と道路ボックス

＜自主事業／特別研究員（田結庄 良昭）＞

教育機関や自治体・団体等からの依頼による防災啓発講座③

山口県における自治体や団体等より依頼を受け、火山に関する講義・講演や防災士養成講座、出前授業などの講師を務めた。詳細は下記に示すとおりである。

実施日	実施内容
4月1日	青野山調査報告、青野町。第2章 調査概要、第1節 青野山の概要、第2節 青野山の地質的特性、第1項 青野山周辺の地質概説、第2項 青野山の地質的特性を担当。 トピックス1. 青野火山群（野坂山）の溶岩ドームが、萩三角州をつくった 2. 青野火山群と阿武火山群は同時に噴火していた時期があった
5月22日	第6回市民学習会「広場やまぐちきちんと知ろう！火山の噴火」講師
10月11日	山口県自主防災アドバイザー養成研修 第17講「火山噴火のしくみと被害」講師
10月30日	角島子ども探検隊「角島の生い立ちを探る」実験・野外観察

<自主事業／特別研究員(永尾 隆志)>

萩ジオパーク構想に関する講演・巡検

山口県萩市には、天然記念物に指定されている「須佐湾」をはじめ、世界でも稀な火山地形を示す活火山「阿武火山群」の50の火山、1,000メートル以上の火砕流からなる「長門峡」などの自然が点在している。萩市では、ジオパーク構想を推進し、防災意識の向上を目指しており、下記の依頼を受け、萩ジオパーク構想に関する講演・巡検などを行った。

実施日	実施内容
4月5日	大井公民館巡検(七重)
4月28日	山口市立小郡図書館主催、郡図書館友の会「鉢の子」共催 「阿武火山群見学会」講師（龍神弁当付き）
5月22日	萩市観光ガイド協会「笠山」
5月23日	山口大学理学部地球システム科学科 1・2年生「龍が通った道」巡検
5月30日	CeMI 北海道支部職員「阿武火山群のふしぎ」と「秋吉台ジオパーク構想」巡検
6月7日	萩市文化協会「萩の大地のものがたりー皆さんをジオパークの世界にご案内しますー」講演
7月7日	萩市教育委員会「ジオな教育」会議
8月19日	紙芝居「メグとドラゴンの物語」打ち合わせ
9月18日	紙芝居「メグとドラゴンの物語」打ち合わせ
10月18日	子ども火山探検隊「発見！2つのマグマが混ざった証拠とマグマの出口」実験と野外観察
11月7日	見島島民の皆さんへ「ジオパーク講座 不思議がいっぱいの火山見島」講演会
11月8日	見島小学校・中学校生徒へ「ジオパーク講座 見島の火山はすごい」のミニトークと野外観察

<自主事業／特別研究員(永尾 隆志)>

その他の活動①

《災害多発への警鐘を鳴らす出版事業》

近年、鬼怒川洪水災害、熊本地震など自然災害が多発している。そこで、現代の災害やその特徴を記し、さらに災害への対処を促す出版事業を国土問題研究会のメンバー、さらに、兵庫県震災復興研究センターの会員とともにいき、無事出版にこぎ着けた。

さらに、2月20日には、災害多発社会のシンポジウムを開催し、講演を行い、本が作成された。

本は「本の泉社」から出版された（260頁、1600円）。この本では、第2章自然を無視した開発と復興災害―六甲山地周辺の土砂災害および地震による人工造成地の災害の例とその教訓―を担当した。

さらに、兵庫県震災復興研究センターから「災害多発社会を考える」報告書Ⅰ（53頁、1000円）が出版され、この報告書では、1章「自然が牙をむく―多発する豪雨災害、火山災害―」28頁を担当した。

また、阪神・淡路大震災の教訓を東日本大震災地に伝えるべく、大船渡などに、兵庫県震災復興研究センターの会員とともにいった。

＜自主事業／特別研究員（田結庄 良昭）＞

その他の活動②

その他の活動は、下記に示すとおりである。

火山に関する調査・研究活動
- CeMI 宇井忠英理事による「ハワイ火山の現地研修」（4/17～24） - 阿武火山群の調査・研究（4/9 伊良尾山スコリア丘調査、4/29 東台調査、5/8 「龍が通った道」調査、6/14 足摺山調査、9/25 自衛隊むつみ演習場調査、11/7～8 見島調査、10/21 自衛隊むつみ演習場調査） - その他の地域の調査・研究（6/8、7/29 須佐地域調査、6/23 惣郷調査）
マスコミ対応
NHK「さわやか自然 萩・阿武火山群」（9/13 放映）撮影補助およびアドバイス（7/25～8/1）
新聞への連載
自然王国 萩から地球へ ―地域密着ジオツーリズムの可能性―／はぎ時事新聞

＜自主事業／特別研究員（永尾 隆志）＞

— 平成 27 年度活動報告 —



特定非営利活動法人
環境防災総合政策研究機構